

～軽度脳障害者のための情報セラピーインタフェースの研究開発～

委託先：(株)国際電気通信基礎技術研究所
研究代表者：知能ロボティクス研究所室長

安部 伸治

研究期間：平成15年9月～平成20年3月

主な研究実施場所：京都府相楽郡精華町

研究成果：軽度脳障害者とインターネットを介したコミュニティとをつなぐ情報セラピーインタフェースの実現を目指した研究開発を実施し、単眼カメラによる視線の検出など軽度脳障害者自身のコミュニケーション意図を検出する手法の開発、思い出ビデオをはじめとする軽度脳障害者の興味を引きつけコミュニケーションを持続させる刺激の提示手法の開発、遠隔傾聴などインターネットを介したコミュニケーションを実現するプラットフォーム開発を進めた。これらの研究成果により、軽度脳障害者の状態・意図に応じた「接続」を行い、刺激の提示・制御によって軽度脳障害者の注意を長く引き付ける情報セラピーインタフェースを実現した。本プロジェクトで開発した思い出ビデオ・遠隔傾聴システムや視線検出技術は、今後高齢者を対象としたコミュニケーション支

援サービス、自動車運転など日常生活における安全支援システム等における活用が見込まれる。

研究成果説明図：



顔向き、視線など本人の意図を検出する技術を開発 思い出ビデオの生成支援技術などを開発

意図検出：軽度脳障害者の意図・興味を検出

刺激提示：軽度脳障害者の興味を持続



軽度脳障害者

家族・ボランティア

コミュニケーションプラットフォーム：軽度脳障害者と家族・ボランティアを結ぶ基盤の構築

通信事業者・介護施設とともにネットワークを介して傾聴活動を行えるシステムを開発・評価



Face-to-face screen

Networked system